



都市計画の定期見直し (広域都市計画マスターplanの策定)

千葉県 県土整備部 都市整備局
都市計画課 都市計画班

都市計画の定期見直し



都市計画見直しの趣旨

都市計画は社会経済情勢の変化に適切に対応するため、概ね5年毎に実施される都市計画基礎調査等の結果に基づき、定期的な見直しを実施しています。

千葉県では、令和3年に行った都市計画基礎調査等から人口減少、自然災害の頻発化・激甚化や広域的な社会インフラの充実など、大きく変化している社会経済情勢の変化に対応するため、都市計画区域マスターplanをはじめとした都市計画の見直しを進めています。

前回

第6回 定期見直し

都市計画基礎調査

調査結果の解析

見直し方針の策定

今回

第7回 定期見直し

都市計画基礎調査



都市計画見直しの基本方針

都市計画見直しの基本方針

令和6年3月14日
千葉県国土整備部都市整備局都市計画課

1 基本方針策定の背景と目的

これまで本県では、人口の増加と産業の発展に伴う市街化の圧力に対し、都市計画による土地利用の整序や計画的な道路・公園・下水道等の都市基盤施設の整備による市街地開発を推進することで、産業や居住、レクリエーション等の都市機能を適切に誘導し、地域の発展に資するまちづくりを進めてきた。

しかしながら、人口については、令和2年をピークに総人口が年々減少するとともに急速な少子高齢化の進展が見込まれる一方、企業立地の受け皿となる産業用地は不足している状況となっているなど、都市計画は、大きな転換期を迎えている。

また、激甚化・頻発化する風水害・土砂災害や大規模地震、SDGsの推進、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を機契とした新たなライフスタイルへの対応が必要となっている。

さらに、県民の生活圏、経済活動の拡大や、高速道路網、成田空港、港湾など社会インフラが充実するなど、大きく変化している社会経済情勢に対応していくためには、都市計画においても、市町村の枠を超えた広域的な視点が求められている。

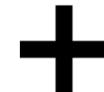
このため、県全域を対象とし、広域的な視点から、今後の都市づくりの目標と方向性を示した「千葉県都市づくりビジョン」(以下、「都市づくりビジョン」という。)を令和5年6月に策定したところである。

令和7年度に予定する都市計画区域マスターplan、区域区分等の都市計画見直しにあたっては、都市づくりビジョンを踏まえ、都市計画区域外を含む県全域における都市圏の将来像を明確にし、その実現に向けた道筋を明らかにすることが重要であることから、その基本的な考え方を示すため「都市計画見直しの基本方針」を策定するものである。

見直しの考え方

県全域を対象とした見直しを進めるまでの基本的な考え方

- (1) 広域的な視点に立ったマスターplanの策定
- (2) 人口減少に対応したコンパクトで効率的な都市構造への転換
- (3) 社会インフラ等を活用した多様な産業の受け皿の創出による地域振興
- (4) 頻発化・激甚化する自然災害への対応
- (5) 自然的環境の保全と質の高い生活環境の整備



成田空港『エアポートシティ』構想

- (6)世界をリードする空港都市圏の形成



都市計画見直しの内容

目標年次

- 目標年次 令和17年(2035年)
- 対象区域 千葉県全域

見直しの内容

- 広域都市計画マスターplanの策定
(都市計画区域マスターplanの見直し)
- 都市計画区域・区域区分の見直し
- 都市再開発の方針の見直し(野田、松戸、柏、市川、船橋、成田、市原、習志野)
※指定都市の千葉市は別途見直しを実施



広域都市計画マスターplanの策定

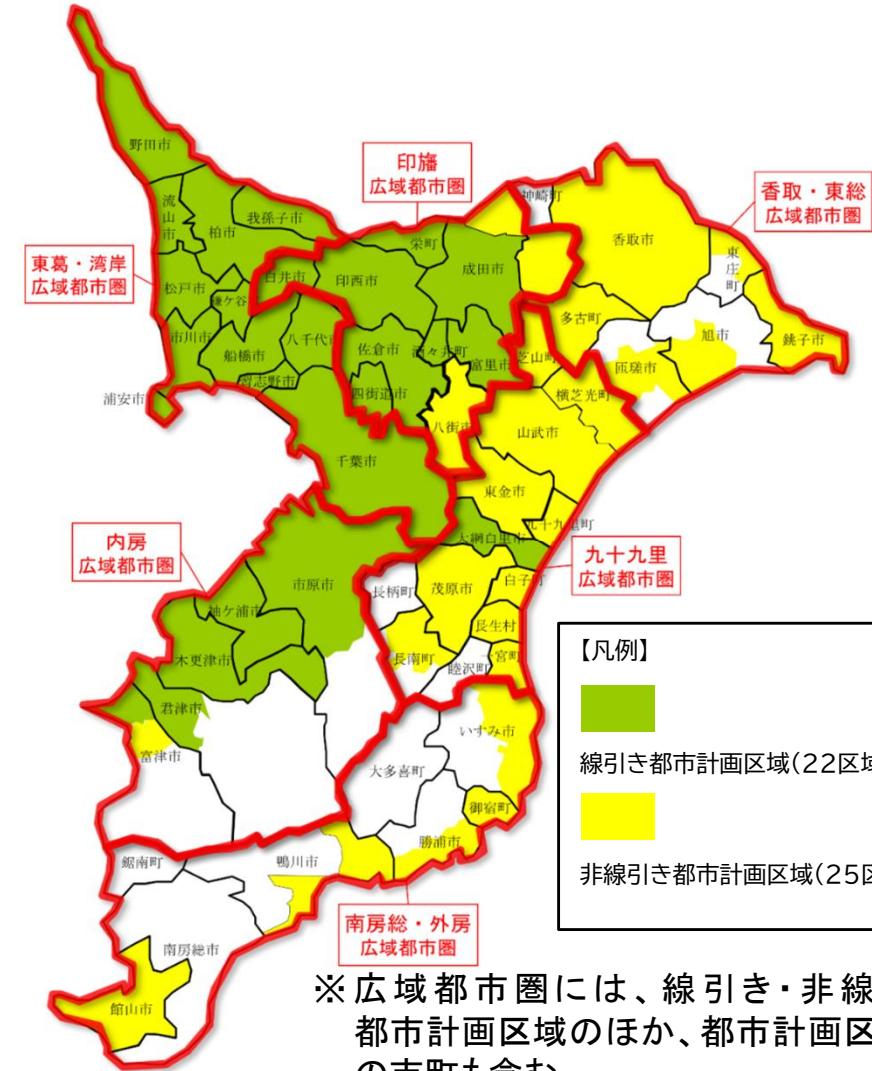
策定の背景・考え方

人口減少や広域幹線道路の整備進展、県民の生活・経済圏の拡大、自然災害の頻発化・激甚化など、県を取り巻く状況の変化に適切に対応していくためには、広域的な視点に立って都市計画を推進していくことが必要

都市計画区域を超えた広域的な枠組みとして**広域都市圏**を設定し、広域都市圏毎に「**広域都市計画マスターplan**」を定め、広域的な視点から、都市づくりの方向性や方針を示すとともに、拠点やネットワークを配置し、合理的な土地利用の規制・誘導を図る

広域都市圏の設定

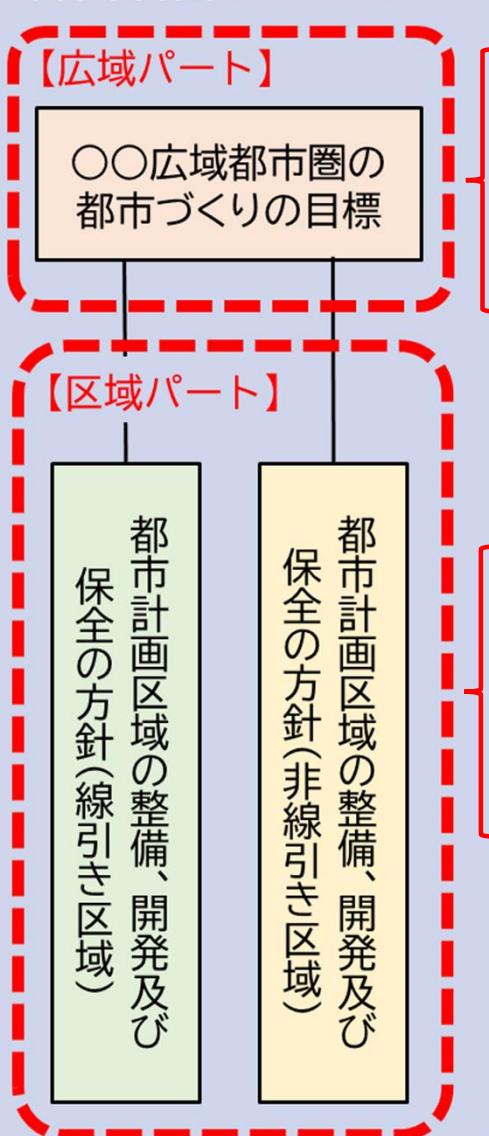
県総合計画を踏まえた「6 圈域」を設定





広域都市計画マスタープランの構成

広域都市計画マスタープラン



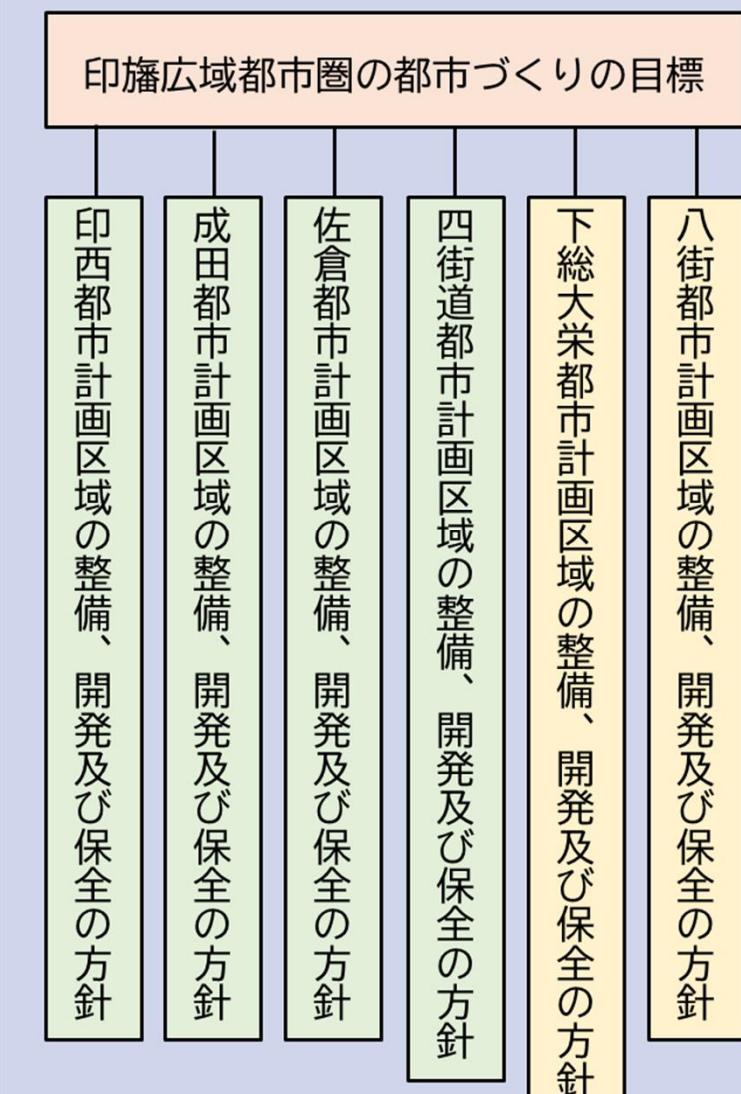
県で原案作成

- 千葉県の都市づくりの基本理念
- 広域都市圏の都市計画の目標
- 区域区分の決定の有無
及び区域区分を定める際の方針
- 広域都市圏の主要な都市計画の決定の方針

市町で原案作成

- 都市計画区域毎の都市計画の目標
- 主要な都市計画の決定の方針
 - ・土地利用
 - ・都市施設の整備
 - ・市街地開発事業
 - ・自然的環境の整備又は保全

(例) 印旛広域都市計画マスタープラン





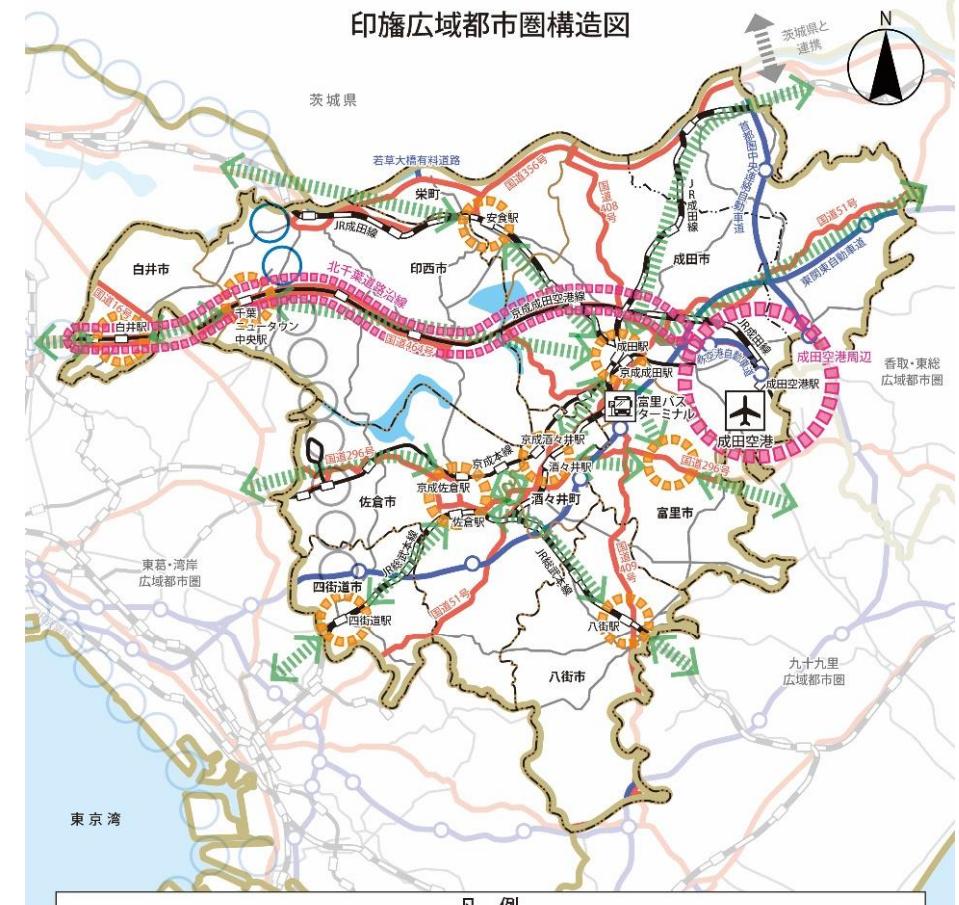
印旛広域都市計画マスターplan

コンパクトで効率的な都市構造への転換

- 鉄道各駅やバスターミナル周辺は、地域拠点として都市機能を集積
- 国県道や拠点間を結ぶ都市計画道路の整備を推進
- 居心地が良く歩きたくなる歩行者中心の空間づくりなど、魅力的な空間を形成

頻発化・激甚化する自然災害への対応

- 北千葉道路の整備の促進、圏央道の4車線化の促進など災害に強い道路ネットワークの整備を促進
- 流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」への転換を進め、安全な都市づくりを推進



凡 例					
広域拠点	鉄道(JR線)	主要な河川・湖沼			
地域拠点	鉄道(JR線以外)	行政区域界			
拠点を結ぶ道路・交通ネットワーク	自動車専用道路・IC	都市計画区域界			
空港	国道	圏域界			
バスターミナル	県道(主要地方道)				
	調査中路線				
	構想道路				

*上記の拠点やネットワークは具体的な位置等を示すものではありません。





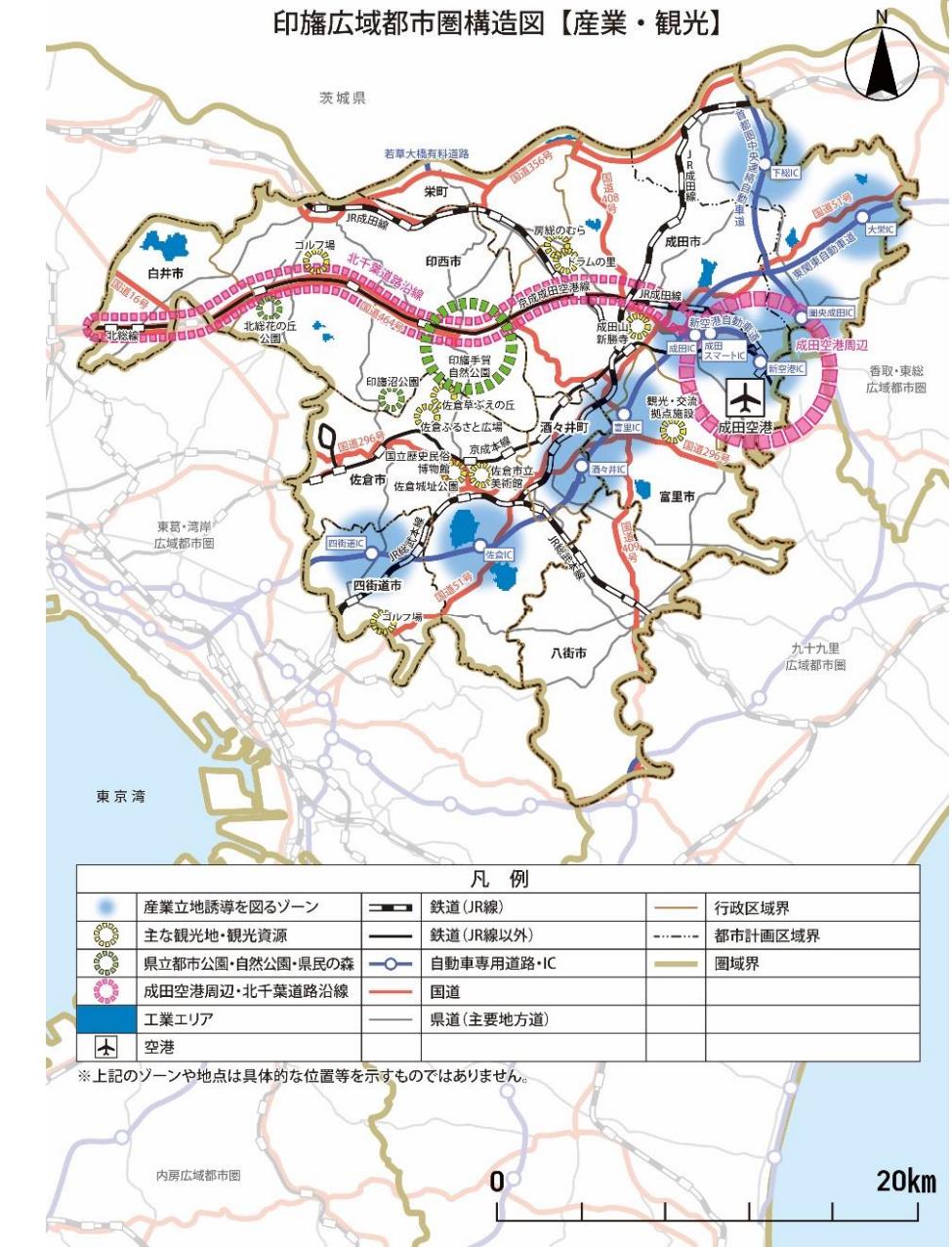
印旛広域都市計画マスターplan

社会インフラ等を活用した多様な産業の受け皿の創出による地域振興

- 国際航空物流をはじめとした、空港の特徴や強みを生かせる産業などを集積し、成田空港を核とする国際的な産業拠点の形成
- インターチェンジ周辺や幹線道路沿線等に新たな産業集積を推進
- 成田山新勝寺や房総のむらなどの歴史的な観光資源を生かしたまちづくりを推進

自然的環境の保全と質の高い生活環境の整備

- 手賀沼・印旛沼や利根川周辺などの豊かな水辺空間や都市緑地等については、都市部のゆとりを与える資源として保全・活用
- グリーンインフラの取組を進めるため、緑地の保全、都市公園の整備等を推進
- ライフスタイルの変化への対応や都市のウェルビーイング向上のため、魅力的な空間を形成





印旛広域都市計画マスターplan

世界をリードする空港都市圏の形成

- 新しい成田空港を中心とするエアポートシティのコアのエアポートエリア、歴史的な水運文化と醸造文化を生かした産業・生活拠点のリバーサイドエリア、自然と調和したエコロジカルな暮らしを実現する生活拠点のナチュラルライフエリア、市街地再生と文化的資源の調和を目指す新たな経済交流拠点のアーバンエリア、この4つのエリアゾーンそれぞれで、特色を生かすまちづくりを推進
- 日本最大の貿易港である成田空港の拡張事業によって、周辺地域が本来から持つポテンシャルを最大化させ、誰もが輝き、世界と響きあう未来志向型のまちづくり
- エアポートシティ構想を踏まえ、国際的な防災拠点の確立など世界をリードする空港都市圏の形成

